

# 校長室の窓から ~夢の扉第13号~ vol. 63 R3. 6. 28 (月)

文責 学校長



## 校長室の窓から

## 期末考査後半戦です。

### ~週末の進研模試に向かって学習三昧の日々~

#### 1 期末考査も後半戦。週末は進研模試(全学年)を受験します。

先週木曜日から始まった期末考査も後半戦に入りました。前半戦は如何でしたか。十分な準備をして試験に臨んでいますか。後半戦残り2日間、最終日まで最大限の努力をして試験に臨みましょう。また、今週末の土・日には全学年とも模擬試験(進研模試)も予定されています。全国の高校生と競う全国模試です。期末考査の学習がそのまま模試対策の学習にもなりますので、期末考査の復習(間違った問題のやり直し)にも十分に取り組みましょう。今週は学習三昧の週になりそうですね。



#### 2 日本の次世代リーダー養成塾に5名が選出されました。

福岡県宗像市のグローバルアリーナを主会場に全国の選ばれた高校生が参加する「第18回日本の次世代リーダー養成塾」の佐賀県推薦枠に本校から池田顕王くん(2-1) 井下綾乃さん(2-2)・織田楓夏さん(2-3)・副島佳美さん(2-3)・立部耕二郎くん(2-3)の5名の生徒が選ばれました。7月4日(日)に事前研修会、7月27日(火)から8月9日(月)の本研修で、様々な講義、ディスカッション等のプログラムに挑戦します。本校はこのイベントに第1回から毎年参加しており、全国の高校生や著名な講師陣から刺激を受けて、その実績を活かした進路実現(早稲田大・慶応大SFC・九大・佐大医学部・・・など)につなげています。

#### 3 3年生の修学旅行が近づいてきました。感染予防策に協力を。

7月5日(月)・6日(火)に3年生の修学旅行を計画しています。3年生の旅行が無事実施できますように、1・2年生の皆さんも不要不急の外出は避けるなど感染拡大防止策にご協力ください。

#### 4 今週の名言・・・三菱財閥創設者の岩崎弥太郎の言葉です。

一日中、川の底をのぞいていたとて、魚はけっして取れるものではない。たまたま魚がたくさんやってきても、その用意がなければ、素手ではつかめない。魚は招いて来るものでなく、来るときに向かうから勝手にやってくるものである。だから魚を獲ろうと思えば、常平生からちゃんと網の用意をしておかねばならない。人生全ての機会を捕捉するにも同じ事がいえる。酒樽の栓が抜けたときに、誰しも慌てふためいて閉め直す。しかし底が緩んで少しずつ漏れ出すのには、多くの者が気づかないでいたり、気がついても余り大騒ぎしない。しかし、樽の中の酒を保とうとするには、栓よりも底漏れの方を大事と見なければならぬ。



【解説】招いたからといってくるわけでない魚群もチャンスも、来るべき時にあっちからやってきます。そのための準備を怠るなということ。チャンスが来てから慌てて準備をしていたら、せっかくのチャンスを逃してしまうだけです。ピンチも日頃からの備えがあればその兆候に気づくものです。予測と柔軟性がビジネスにおいても人生においても重要だと伝えていきます。

【岩崎弥太郎について】明治初期の実業家、三菱財閥の創設者。父は土佐藩の郷士。弥太郎は岩崎家と三菱財閥岩崎邸後藤象二郎の推挙を得て藩営の商社、開成館に勤務し、維新の戦役では大坂の土佐商会にあって藩の兵站を引受けた。廃藩置県に際し、同商会を継承して三菱商会を興し、徹底した商人的合理主義と排外的闘志をもって、政府、ことに大隈重信の保護のもとに海運界で独占的地位を築き、さらに鉱山、造船、海上保険にも進出した。もともと彼の独占は言論界の批判と反三菱、反改進黨運動を激化させ、政府の後ろ盾を得た三井系の海運会社である共同運輸会社との壮絶な一騎打ちという事態を招いた。彼は政府を相手に決して屈せず競争し、政府による調停(共同運輸が海運三菱に吸収され日本郵船となる=岩崎の勝利)の成立を聞きつつこの世を去りました。(参考:「Wikipedia」より)

#### 5 今週のお話成語・・・「株を守る」【問題】英語で表現すると?

一つのことにとらわれて融通のきかないこと。昔から行われてきたことを頑固に守り行うばかりで、新時代に応じた見識を持たないこと。(出典:『韓非子』の「五蠹」より)

【由来】昔、宋の国にある農民がいました。その農民はある日、ウサギが走ってきて木の切り株に当たり、首を折って死んでしまうのを目撃しました。そこで、その農民は切り株の前で待っていればまたウサギを得ることができるのではないかと考えました。よって、彼は仕事を投げ捨てて毎日切り株を見張っていました。しかし、農民はウサギを取ることができずしてました。そして、彼の畑は荒れ果て、彼は国中の笑いものになってしまいました。

#### 6 どこかおかしい日本語(その13)・・・どう読みますか?

- ① 好事魔多し
- ② 一衣帯水
- ③ 他人事
- ④ 堂に入る
- ⑤ (お寺の)礼拝堂

## 7 今週の一冊・・・宇佐見りんの『推し、燃ゆ』(河出書房新社)です。

**推しが炎上した。ままならない人生を引きずり、祈るように推しを推す。そんなある日、推しがファンを殴った。**(参考:本書表紙説明より)

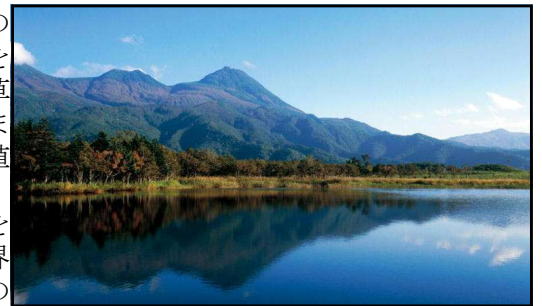
【解説】芥川賞受賞作品として読んでみたいと思っていた一冊です。図書館に返却されたタイミングで借りて読んでみました。三島由紀夫賞を最年少で受賞した21歳の著者の第二作にして芥川賞受賞作品です。昭和世代の人間にも青春時代に「イチ推し」のアイドルは誰にもいたように思いますが、当時はネット社会ではなかったもので、ここまでのめり込む世界ではなかったように記憶しています。SNS上の用語も私には一部理解できない表現等もありました。本書の世界観には正直共感できず、「異世界」の観は否めませんが、著者の表現力の巧みさには、卓越した点があり、一読する価値はあるように思います。文学界の名だたる著名人、高橋源一郎、村田沙耶香、島本理生、朝井リョウ…激賞!高橋源一郎さんをして「すごかった。ほんとに」と言わしめる本作の凄みは文芸界のみならず、各界著名人の方にも支持されているようです。最新トレンドを扱いながらも、非常に洗練された文章と高い文学性が海外からも絶賛され、現在世界7カ国・地域での翻訳出版が決定しているそうです。読んだ人、共感できたという人はぜひ感想を聞かせてください。

【作者・宇佐見りんについて】1999年静岡県生まれ、神奈川県育ち。現在大学生、21歳。2019年、『かか』で第56回文藝賞、史上最年少で第33回三島由紀夫賞を受賞。2021年、『推し、燃ゆ』で第164回芥川賞を受賞。(参考:本書表紙裏の著者紹介文より)

## 8 世界遺産を巡る(日本編)・・・第13回は知床

(世界遺産登録年:2005年)

【解説】アイヌ語でシリエトク「地の果て」を意味する知床。流水が育む海の生態系と、原始的な陸の生態系が高く評価され、世界自然遺産の仲間入りを果たしました。知床半島を中心とした面積約4万haの知床国立公園には、草原・溪流・森林・湿原・湖沼などが点在し、変化に富んだ景観を見せています。“日本最後の秘境”ともいわれるとおり、原始的な自然が残る知床は動植物の宝庫。エゾシカ、エゾリス、キタキツネのほか、ヒグマの出没もしばしばで、海にはクジラ、シャチ、トド、アザラシも姿を現します。鳥類も豊富で渡り鳥を含めると260種以上が生息、シマフクロウ、オオワシ、オジロワシなどの世界的な絶滅危惧種の聖域としても注目されます。知床連山では800種以上の貴重な高山植物も確認。静寂の森にたたずむ知床五湖をはじめ見どころは多く、雄大な景観は素晴らしいの一言です。また、知床は滝が多いことでも有名。カムイワツカの滝、フレベの滝など、同じ水の流れでもそれぞれ異なる印象を抱かずにはいられません。四季折々でいろいろな表情を見せる、秘境・知床。本州では決して味わうことのできない大自然の息吹が体験できます。(参考:文化庁HP『日本の世界遺産一覧』より)



## 9 街角グルメを訪ねて・・・第13回は唐津市の「LAZY BIRD BAKERY」です。

事務室の黒田先生から情報を得て、唐津まで足を伸ばしてみました。道路に面してはいますが、こぢんまりとした店舗のため見落としがちな場所にありました。早稲田佐賀高校の近くにあるローソンの前にありました。ここは福岡県糸島のベーカリーレストラン『カレント』に勤めていた方がオーナーで、2018年11月にオープンさせたパン屋さんです。この日は近くの「舞鶴荘」の敷地内で「北城内マルシェ」のイベントが開催されており、そちらに出店されていたために店舗は閉まっていた。そこでマルシェに足を運び、この日はハード系のパンを購入。他にも食パンや餡ぱん、クリームパン、メロンパンなどはもちろん、バケットなどもあり、いずれも美味しそうでしたが、またの機会に楽しみたいと2個で我慢しました。閉まっていた店内にはお洒落な文房具も販売してあるようです。ただし、駐車場はないようなのでご注意ください。この日は同じマルシェ会場には最近人気のサンドイッチ専門店「fun」も出店されていて、長蛇の列が出来ていました。こちらは次号で詳しく紹介します。



## 10 保護者の皆様へ・・・7月14日(水)から三者面談を予定しています。

7月14日(水)から19日(月)の日程で三者面談を行います。すでに案内はお届けしています。お忙しい中とは思いますが、ご都合をつけていただいて、ご来校くださいますようお願いいたします。なお面談の際には、**行きたい進路・経済的な支援・将来の職業選択**等についても確認することになりますので、予めご家庭でも十分にご検討ください。

【英語】to hold fast to one's ways; to be overly conservative; to not get with the times; to guard the tree stub

【正解】①こうじま・おおし ②いち・いたいすい ③ひとごと ④どうにいる ⑤らいはいどう

【解説】①「好事」には「邪魔」が入りやすいという意味の語。②「一本の帯のように狭い川」を表す語で、両者が非常に近い間柄にあることを指す。「いちい・たいすい」とは読まない。③「他人」を「たにん」と読むのはもちろん正しいのですが、ある種の慣用句の場合は「ひと」と読むので要注意。例としては「**他人のふり見てわがふり直せ**」や「**他人の禰で相撲をとる**」などがある。④「入る」は「はいる」とも「いる」とも読むが、これも慣用表現の時には読みに注意を。「**悦に入る**」「**虎穴に入らずんば虎子を得ず**」は「いる」としか読まない。⑤「礼拝堂」は仏教では「らいはいどう」と読み、キリスト教の教会の場合は「れいはいどう」と読む。日本での仏式のお葬式の時には司会の方が「がっしょう、らいはい」とアナウンスするのを思い出してほしい。